

〔第6集に寄せて〕

昭和41年（1966）音楽之友で出版された標準音楽辞典（1542頁）のマンドリンの項を見ると、線で描かれたマンドリンとその音域が図示され、1020字ほど、比較的詳細に紹介されている。

楽器の材質、機構、演奏姿勢、奏法にまで及んでおり、モーツァルト、ヴェルディ、マーラーなどの管弦楽に利用された例もあると言及されているが、

この楽器のオリジナルの作品、作曲家については何も触れていない。

然し、最も興味あるのは、第1弦は感傷的で鋭く第2弦は温和、第3弦は甘く、第4弦は深いとありトレモロが特徴的で、

アマチュアの楽器として常に大きな地位を占めていることが挙げられている。

この厳然たる事実は、残念ながら避けられない宿命のようなもので、甘んじなければならないが、楽器が存続する限り、筆者などは永年の愛着の絆を断ち切ることは出来ない。

〔マンドリン合奏曲集（JMU版）第六集より〕